

06. 宮島・紅葉谷川の庭園砂防と老舗旅館一体整備に関する研究

1010920038 杉本 真理
指導教員 市川尚紀 准教授

庭園砂防 紅葉谷川 老舗旅館 一体的整備

1. 序論

宮島は、松島・天橋立とならぶ日本三景の一つとして知られている景勝地である。島の中心には、厳島神社があり、厳島神社および弥山原始林はユネスコの世界遺産に登録されている。また、治水対策がなされた紅葉谷公園があり、そこは紅葉が魅力的である。観光客だけでなく地元住民の憩いの場としても親しまれている。

宮島には幾つもの旅館があるが、中でも最も古い老舗旅館の裏手には、自然河川が流れており庭と一体化しているように見える庭園砂防がある。一般的な公園の砂防工事に関する資料は存在するが、老舗旅館と自然河川のように私と公が一体となって存在する空間がどのように整備されたかという資料は存在しない。そこで、本研究では宮島、紅葉谷川の庭園砂防と老舗旅館を対象として調査し、その歴史・経緯、護岸整備内容・手法、法規・土地利用を把握することを研究の目的とする。調査方法として、文献調査・フィールド調査・ヒヤリング調査を行う。

表 1 調査方法

対象	入手資料	ヒヤリング内容
広島県庁 砂防課 (2014, 9, 30)	宮島紅葉谷川の庭園砂防 (広島県土木砂防課、 昭和63年)	①庭園砂防の護岸整備内容 ②老舗旅館との敷地境界線
廿日市市役所 都市計画課 (2015, 1, 28)	宮島における法規法比較 一覧表、法別にハザード マップ、砂防範囲 都市公園の範囲	宮島内の法律・制度・計画につ いて都市公園法に指定されてい る全島で、それ以外に適用され ている法律
宮島観光大使 (2014, 11, 1)	老舗旅館の建設年・設計 者・施工者	①老舗旅館の歴史 ②紅葉谷川の庭園砂防について
宮島老舗旅館 旅館社長 (2014, 11, 2 - 11, 6 - 11, 16)		①老舗旅館離れの5棟につい ての歴史 ②龍門亭の東柱下の石につい て ③枕崎台風の被害状況

2. 紅葉谷川の庭園砂防の調査結果

2.1 庭園砂防の歴史と経緯

宮島は、これまで約 200 年ごとに大きな被害を伴う土砂災害が発生している。その中でも、昭和 20 年に発生した枕崎台風は、大きな災害を引き起こした。その後も紅葉谷川には土砂や、巨石によって年毎に両岸が狭められ

そこに樹木が鬱蒼と茂った。またそこに、土石流が衝突し、一大土石流を形成した。その岩盤は石の樋となり土石流の流下速度を速めた為、途中にある堰堤を次々に破壊するほどの破壊した。

昭和 23 年から、入念な工事をするを課題とし、地元住民・国・県・町・学識者らの声をもとに復旧工事が計画された。しかし、宮島は大正 12 年に史跡名勝の指定を受けており、復旧工事にあたっては砂防施設も史跡名勝を損なってはいけない為、治水上の要請と一致させる必要があった。



図 1 紅葉谷公園

(出典：広島県土木建築部砂防課著 紅葉谷川の庭園砂防抄)

2.2 庭園砂防の護岸整備内容・手法

紅葉谷川の溪流工事は、史跡名勝地としてふさわしい工事内容にすること、治水上の風致を一致させることを考え、岩石公園築造趣意書という書が作られた。その内容を表 2 に示す。

紅葉谷川上流部の溪流工事は、通常砂防として施工されている。溪流の性質上、堰堤はできるだけ小さい物を数多く造り、災害の際、急勾配の斜面を転石が速い速度で落下しないよう、土砂巨石の流動の距離をできるだけ短くしている。また、溪流に沿ってハイキングコースがあり、堰堤は自然石で包む配慮が施されている。中流部の上の岩石公園では、野面石を整理して庭園風に施してある。たくさんの石を動かし、取り除いたりして整理をしたもので、横に並ぶ一連の石積が床止工の役割をしている。川の状況から、庭園となるような砂防とすることを求められたため、その際に、造られたのが岩石公園築造趣意書である。趣意書には、石材は他地方から運び入れず現地にあるものを使用すること、庭園師に仕事をし

てもらうこと等が書かれている。工事は「かぐらさん」方式で行われ機械を持ち込まない工事が行われた。

下流部には、奔流埋積した砂の処理後に導流堤が築造されたとされている。

表 2 岩石公園築造趣意書

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 巨石、大小の石材は絶対に傷つげず、又割らない。野面石のまま使用する。 1. 樹木は割らない。 2. コンクリートの面は眼にふれないように野面石で包む。 3. 石材は、他地方より運び入れない。現地にあるものを使用する。 4. 庭園師に仕事をしてもらう。いわゆる石屋さんのみや金槌は使用しない。 |
|--|

2.3 庭園砂防の法規制・土地利用

宮島は、瀬戸内海国立公園法に指定されており、昭和 32 年にその法律が廃止され、その後、自然公園法となる。その指定地域の中で、紅葉谷川は特別地域に指定されている。特別地域とは、公園の風致を維持する為の地域の中で、用途に応じて第一種から第三種まで区別がある。また、都市計画法²で、昭和 13 年に宮島全島が風致地区に指定され、他にも建築基準法（区域指定）、文化財保護法、景観法、土砂災害防止法の法規制がある。

3. 老舗旅館の調査結果

3.1 老舗旅館の歴史

160 年の歴史があるこの旅館は、宮島では有名な老舗旅館である。また離れがあり、錫福館は昭和 8 年(1944 年)に建てられ、龍門亭は大正 13 年(1924 年)、秋錦亭は昭和 3 年(1928 年)、錦楓亭は昭和 26 年(1951 年)、洗心亭は昭和 25 年(1950 年)に建てられた。安政元年から、始まり大正の頃に川座敷が建てられた。その後、枕崎台風の土石流によって川座敷が流され、失われた川座敷のあとに「ひょうたん棧敷」が構えられた。これは、庭園砂防へと生まれ変わった先人の偉業に思いをいたし、老舗旅館の歴代が宮島の憩いの場として末代まで語り継ぐ場として紅葉谷川に一景として、ひょうたん棧敷を展示したという。

なお、老舗旅館の離れの設計者と施工者は、特定できないが京都から呼び寄せた大工により、書かれた図面をもとに建築されたという。

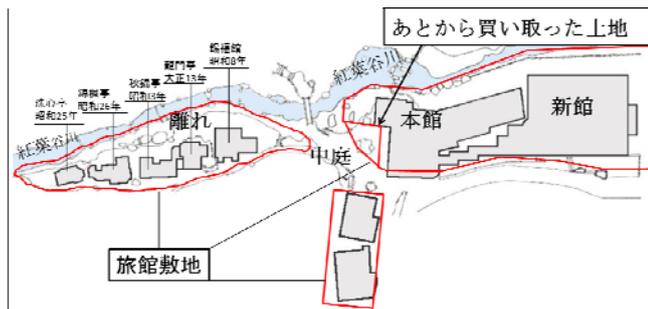


図 2 老舗旅館全体図

今後は、洗心亭を修繕して文化財に指定されるよう申請する予定だという。

3.2 老舗旅館の護岸整備内容・手法

老舗旅館の離れの中でも、龍門亭の東石は、紅葉谷川の庭園砂防と一体化しているように見える。この石はもともと龍門亭が建てられた時に造られていたものである。老舗旅館と庭園砂防との敷地境界線は道の砂防側にある。龍門亭付近も枕崎台風時に被害を受けたが、

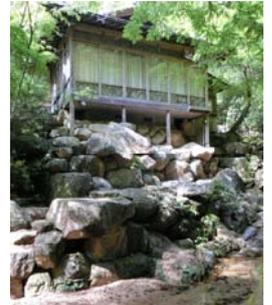


写真 1 龍門亭

老舗旅館の敷地内は旅館が独自に修復を行ったという。境界線から砂防側は紅葉谷川の庭園砂防工事の際、道の脇に石積が造られた。この石積みは老舗旅館の東石に合わせて、同様な景観をもたせるために庭師が造ったものである。

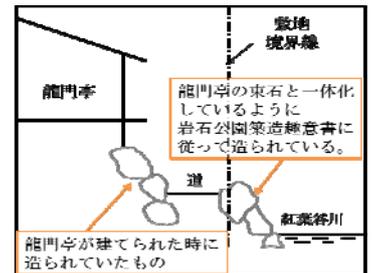


図 3 庭園砂防の断面図

3.3 老舗旅館の法規・土地利用

宮島は、自然公園法に指定されているため、何かを行う際には許可が必要となるが、老舗旅館は唯一、自然公園法に縛られることなく経営することができている。そのため、川面を利用して音楽会などを行っている。また、老舗旅館の建物は、本館と離れ 5 棟の他、少し離れた場所にも 1 つある。本館前の中庭の区域は、自然公園法に指定されている土地だったが、景観が美しかったため、わざわざ買い取ったという。

4. まとめ

本研究では、宮島紅葉谷川の庭園砂防について調査をした。紅葉谷川の庭園砂防には、岩石公園築造趣意書というものが使われており、庭園師と協働で庭園砂防工事を行っていたことが分かった。また、老舗旅館の離れの東石は、離れが建てられた時の計画によって造られていたことが分かった。

課題と展望としては、紅葉谷公園すべてを調査できなかったため、他の紅葉谷公園にある建築についても調査していく余地があると思う。紅葉谷公園の庭園砂防のような砂防工事は、現在の法規上では行うことができないので、今後もこの庭園砂防が維持保存されることを願う。

参考文献

- 1) 広島県土木建築部砂防課：紅葉谷川の庭園砂防抄, 1988. 3
 - 2) 廿日市市建設部都市・建築部都市計画課：廿日市市風致地区区内における建築等の規制に関する条例の手引き, 2014. 4
 - 3) 海堀正博：世界遺産・厳島の土砂災害と庭園砂防, 2008. 10
- 注：かぐらさん方式：石や大木などの重量物の運搬を行う装置